

学会行事・消息: 1959年年度, 1960年度

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39101

学 会 行 事 ・ 消 息

昭和34年4月19日 American Studies Lecture Series 始まる。この Series は U.S. Area Study with Emphasis on 1900 to the Present なる subtitle からも判るように、20世紀のアメリカ合衆国という文化の地域的全体を種々の角度から集中的に考究しようという意図から発した新しい試みで、アメリカでは既に盛んに行なわれている方法だといわれる。金沢大学でも下記の如き schedule により、昭和34年度前期を通じ、毎週火曜一時からその lectures を聴いた。tape recorder による録音がなされ、再生が可能である。昭和35年度も、毎週水曜十時半から一層充実した内容をもつて再開されるが、個別作家論が多く、成果が期待されている。本会会員の聴講は歓迎されるところで、諸兄姉は是非この好機を利用されることをお勧めしたい。

1 9 5 9 年 度

- | | |
|--|-----------------|
| 1. <i>Explanation of Area Study,</i> | 木村教授 (東大) |
| 2. <i>Intellectual History of U. S.,</i> | Dr. Thompson |
| 3. <i>Background of U. S. History,</i> | 中屋教授(東大) |
| 4. <i>American Philosophy and Religion,</i> | Dr. Ames |
| 5. <i>American Poetry,</i> | Dr. Southworth |
| 6. <i>American Family,</i> | Dr. Blood |
| 7. <i>American Society,</i> | Dr. Ishino |
| 8. <i>American Novel & Drama,</i> | Dr. Varley |
| 9. <i>American Education,</i> | Dr. Hullfish |
| 10. <i>American Diplomacy,</i> | Dr. Burks |
| 11. <i>American Politics,</i> | Dr. Maki |
| 12. <i>American Labor Management,</i> | Dr. Levine |
| 13. <i>Individualism and Regulation in American Economic Life,</i> | Dr. Rotwein |
| 14. <i>Modern American Poets,</i> | Prof. Tagliabue |
| 15. <i>American Images and Realities,</i> | Dr. Curti |

1 9 6 0 年 度

- | | |
|---|----------------|
| 1. (April. 20) <i>People, Politics, Parties</i> | Prof. Bartlett |
|---|----------------|

2. (April 27)	<i>American Geography</i>	Prof. Kornhauser
3. (May 4)	<i>Society and Literature</i>	Prof. Masuoka
4. (May 11)	<i>American History</i>	Prof. Nakaya
5. (May 18)	<i>American Thought</i>	Prof. Padover
6. (May 25)	<i>Frost</i>	Prof. Tagliabue
7. (June 1)	<i>Pound and Eliot</i>	Prof. Geiger
8. (June 8)	<i>Hemingway</i>	Prof. Foff
9. (June 16)	<i>Faulkner</i>	Prof. Goldstein
10. (June 22)	<i>Scott Fitzgerald</i>	Prof. Mrs. Schemm
11. (June 29)	<i>20th Century American Theatre</i>	Prof. Wright
12. (July 6)	<i>Willa Cather</i>	Prof. Mrs. Takano
— Summer Vacation —		
13. (Sept. 14)	<i>Anderson and Wolfe</i>	Prof. Yamaya
14. (Sept. 21)	<i>Tenn. Williams</i>	Dr. Brandon

6月17日 学会委員会。研究発表会及び会誌発行の件を議した。

6月27日 午後一時より研究発表会。出席者は約60名で内容は次の通りであった。

4年 相木昭一：*Jude the Obscure* の Sue Bridehead に対する一考察

4年 松村郁子：*Galsworthy, The Forsyte Saga* における財と美の対立について

日本英文学会中部支部第十二回大会プログラム

昭和34年10月24日 (土)

開会の辞 日本英文学会中部支部副会長 福井大学教授 齋藤 静氏

研究発表

第一室

司会 梶 圭之助氏

1 Katherine Mansfield とチェホフ 金沢女子短大附属高校教諭 劍崎 伴子

2 “Huckleberry Finn” に現われた副詞 —Flat Adverb と・ly 型
副詞について— 静岡県立清水東高校教諭 内田 貢

3 Cadence に基く Intonation の分類 福島県立磐城女子高校教諭 国井 正武

司会 山口 秀夫氏

4 米語における Gerund の Sense-subject に関する一考察
愛知学芸大助手 舌津 清

5 英国南部方言と Charles Kingsley について 名古屋商大助教授 後藤義之進

6 Basic English の現実性
一品詞の転換と英語の単純化について— 静岡薬科大学教授 中村 一雄

第 二 室

司会 大久保純一郎氏

1 Keats の来世観

— “Lamia” を中心に

小松市丸の内中学教諭 沖谷珠美子

2 “Adonais” における Adonais と Aphrodite

名古屋大学大学院 高橋 規矩

3 Shelley における美の理念

愛知県立女子大助手 永井 誠

司会 今村 晃氏

4 “Alastor” に現われる Shelley

大阪大学大学院 神保 慈

5 Asia の歌 —“Prometheus Unbound” II, v. の示唆

信州大助教授 小田 幸雄

6 Henry Constable と John Donne

名古屋大学講師 川崎 寿彦

第 三 室

司会 清水忠次郎氏

1 V. Woolf の “To the Lighthouse” —時間と死

吉永 保雄

2 T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrock” について

愛知県立女子大 岩崎 宗治

3 「うつろな人々」と「闇の奥」

愛知大講師 乾 勇

司会 山根 義雄氏

4 Graham Greene における逆説的論理

岐阜大講師 横山 彰

5 Steinbeck の Heroism

愛知県立瑞陵高校教諭 岡田 郁夫

6 「虞美人草」と “Hamlet” と “Antony and Cleopatra”

富山大助教授 森谷佐三郎

特 別 講 演

Sir Philip Sydney’s “Arcadia” and the Probability of Samuel

Richardson’s Debt to It

前大阪大学教授 加藤 猛夫氏

閉 会 の 辞

名古屋大学教授 加藤竜太郎氏

総 会

懇 親 会

司会 金沢大学教諭 神保 竜二氏

§ Irish Harp 演奏—— Shakespeare 時代の歌曲

雨田 光平氏

公 開 講 演

行動主義の言語観と文学のことば

東京大学教員 中島 文雄氏

日本ハーデイ協会第三回大会プログラム

昭和34年10月25日 (日)

開 会 の 辞

京 都 大 学 教 授 中 西 信 太 郎 氏

研 究 発 表

司 会 山 本 文 之 助 氏

- 1. "The Woodlanders" の一つの見方 桜ヶ丘高校教諭 中村 志郎
- 2. Henchard の性格と自然について 名古屋電気学園教諭 太田 道治
- 3. "Tess" における愛の論理 広島女学院大学講師 片桐 寛
- 司 会 太田 三郎氏
- 4. "Tess" における異本と定本に関する諸問題 学習院大学大学院 大場 啓蔵
- 5. Hardy 文学における Dialect-Speakers について 名古屋商大助教授 後藤義之進
- 6. Hardy と Coincidence 同志社女子大助教授 望月 満子

総会および午餐会

司 会 大 沢 衛 氏

§ 英米 Hardy 関係者よりのメッセージ朗読

大阪府立大学教授 藤井 啓一氏ほか

§ Hardy 文献抄展示会

研 究 発 表

司 会 滝 山 秀 乃 氏

- 7. Hardy と Lawrence 大阪市立大助教授 丹羽 千年
- 8. Hardy の一断面 —— 彼の世界観把握の一つの試みとして 熊本大学助教授 金子 正信

特 別 講 演

Hardy と 潤一郎 —— 「春琴抄」について 東京工業大学講師 太田 三郎氏

§ Hardy Country Colour Slides 映写 北海道大学教授 柏倉 俊三氏
東北大学教授 伊田 友作氏
中島 文雄氏

閉 会 の 辞

10月28日 神戸大学教授山本忠雄氏が本学を訪れられ、英文科教官等はお会いして、研究室で一時を過した。

11月1日 例年通り、新学部進学生の歓迎会があった。(名簿参照)

昭和35年1月23日 学会総会及び研究発表会。出席者43名。折あしく降雪があったためか卒業生の出席が極少であったのは惜しまれた。研究発表の内容は次の通りである。

Symposium: *As You Like It* について

- 3年 太田 範子 : その雰囲気について
- 3年 西岡 淳子 : その女性について
- 3年 和田 彪 : その道化について
- 3年 合田 初穂 } その puns について
- 3年 宮崎 信子 }

1月30日 会誌編集委員会

2月24日 McAlpine 夫妻来訪。主に現代英文学について教官等と座談会、その後英詩の朗読を夫妻でなされ、テープに録音させて頂いた。